

読者が作る

青年のページ

★編集部から★ このページは、農村の青年たちが写真を取り、書き、編集したもので、ループがあれば下記、本紙編集部まで。

〒102-8411 東京都千代田区一番町19番地 ☎03(3263)6727



農業がつなぐ 日本とケニア

海外インターンシップ運営を主幹事業とする学生団体「NPO法人アイセック・ジャパン」の上智大学委員会(松山晴香代表・3年生)は、ケニアの大学、カソリック・ユニバーシティ・オブ・イースタン・アフリカに在学中のネルソンさん(22歳、Mburu Neilson Kimani)をインターンシップ生として招きました。受け入れ企業は、電気や機械を使わず、少量の水と日光で有機野菜を育てる技術を有する国内企業のネイチャーダイナミクス社。ネルソンさんは今年7月18日～8月29日の6週間、海外市場のマーケティングや海外NGOへの営業などを経験しました。帰国後、同社の支社を立ち上げ、日本とケニアを農業技術でつなぐ活動を開始しています。

NPO法人
アイセック・ジャパン
上智大学委員会



ネルソンさん(前列中央)と二橋プロジェクトリーダー(前列左)。本インターンシップを手掛けたプロジェクトメンバーと共に
インターンシップ終了を控えて成果を発表するネルソンさん
NPO法人
アイセック・ジャパン上智大学委員会
126の国と地域で活動する学生組織「AIESEC」の日本支部として、海外インターンシップ運営を主幹事業とする学生団体「NPO法人アイセック・ジャパン」の一員。国際連合と提携し、持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals) の達成に向けて、世界中の企業やNPO、NGOなどで、日本の学生には海外で、海外の学生には日本の企業で働く経験を提供している。ホームページ=http://www.aiesec.jp

インターンシップ生が先進技術学ぶ 食糧問題解決へはじめての一步

本インターンシップを実施するにあたり、プロジェクトリーダーの二橋公亮(2年生)が企画およびネルソンさんの受け入れを担当。この経験から、彼らはたくさんのご縁を得ることができました。そこで、2人にインタビューしました。

二橋 二橋公亮(2年生) 二橋公亮(2年生)の要約を踏まえて、主にアフリカ地域の学生を対象に選抜しました。中でも、ネルソンさんに決まった理由は二つあります。われわれが、思いや志を体現できる「人生のターニングポイント」となるようなチャンスを提供したいと思ったこと。親が農業関係の仕事に就いている彼が、自国の農業問題や飢餓などの解決に強い意欲を持っていること。

ネルソン 母国の問題解決を目指す私にとって、インターンシップの6週間は貴重な時間となりました。アイセック・ジャパン上智大学委員会とネイチャーダイナミクス社

人生の選択肢を広げて



毎日のように一緒に食事へ行くほど親密になったネルソンさんと二橋プロジェクトリーダー
「ダイナミクス社のみならずには、本当に感謝しています。どんな学びや変化がありましたか?」
担当として、ネルソンくんを一番近くで見させていただきました。受け入れ企業の課題への解決策に悩んだこと、課題の解決にどのように関わることができたか、をより自分事として考える姿勢が印象的でした。

助け合って前に進む



すしとどんのセットを前に二橋好きで日本の食べ物ファミリアレストランのハンバーグ

決める可能性を見いだせました。日本のビジネスへの理解も深まり、コミュニケーションスキルの向上にもつながりました。
今後のビジョンは?
目指すものが明確で、そこに向かって進んでいけば、協力してくれる人がおのずと集まってくることを実感できました。この経験を生かして、成し遂げたいことに向けて

社会を変えるリーダーに



貧困・飢餓・健康・教育。世界は多くの課題であふれています。これからの未来を担う若者が、社会の課題と向き合い、自分のできることを考え、悩み、行動し、試行錯誤する。そんな社会を変えるリーダーへの第一歩となる経験を提供すべく、アイセック・ジャパン上智大学委員会は、今後とも力を尽くします。

他者と協働しながら、一歩ずつ進んでいきたいです。
日本での学びを還元すべく、母国でネイチャーダイナミクス社の支社設立を進めています。農業技術を広めることで、飢餓や水問題解決の一助となり、多くの命を救うことを目指しています。
ネルソンくんがどんな未来をつくるのか、担当として、一人の友人としても、すくすくワクワクしています。